



# 園だより

文京区立第一幼稚園  
令和5年度6月号

URL <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/dai1-kg/>



## 生き物との関わりを通して

副園長 工藤 真規子

「今日は雨なの！」とキラキラした目で雨に濡れたアジサイに触れ、雨の日の景色を喜び子供の姿に、清々しい一日の始まりを感じた朝です。

先日、向ヶ丘青少年健全育成会に参加し、地域の様々な方々が、子供から年配の方まで安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいる様子を知りました。その中で、学校・幼稚園の行事等へのご協力のお申し出もあり、大変心強く感じるとともに、第一幼稚園が地域の幼稚園であることを改めて感じました。

今、子供たちが夢中になっている遊びの一つに「ダンゴムシとの関わり」があります。

年少児は、小さな豆腐パックで作った探検グッズに葉っぱを入れてあります。花壇の近くでダンゴムシを見つけては「先生、見て!」「さわれたよ」と口々に言っています。よく見て見つける、触る、そっとつまむ、「自分の」ダンゴムシを持ち歩くことなどを楽しんでいます。

年中児は、園庭の土落としのマットをめくったりプランターの下を探したりしています。「こういう湿った場所にいるはず」という予測をして探し、捕まえたものは学級の飼育ケースで飼っています。「黄色い模様があるのはメスなんだ」と図鑑を見合ったり知識を伝え合ったりする姿もあります。

年長児は、飼育ケースに土や枯葉を入れてダンゴムシを育てています。そこでは空き箱製作でいろいろな『ダンゴムシのおうち』『ダンゴムシ遊園地』を作っていました。ダンゴムシが渡る橋や階段、ベッドやブランコなどがあり、作り足してはダンゴムシのいろいろな動きを楽しんでいました。担任が透明なシートを出すと、通路の中を通っているダンゴムシもよく見えるようになって大喜びです。

そして「触りすぎると弱ってしまうから」と少し遊んだら飼育ケースにダンゴムシを戻して、別のダンゴムシと入れ替えることにしたようです。年長になると、「動きをよく見て自分なりに考える」「特性や個々の様子に気付く」「命あるものを大事に扱う」こと、それらを仲間と共有することができるようになります。同じダンゴムシに触れることでも子供たちが経験していることは様々で、学年の発達に合った環境や教材、援助を日々工夫しています。

今年度、幼稚園では「身近な自然に主体的に関わり、感性豊かに遊ぶ幼児の育成」をテーマに園内研究として学び、園内の環境、教材の充実と、幼児理解を生かした教育内容の改善を図っていきます。

カブトムシの幼虫、アゲハの幼虫、メダカ、ヤマトヌマエビなど、保護者の方にお持ちいただいた生き物も、子供たちの心を潤す存在になっています。生き物の命が輝くこの季節、ぜひ保護者の皆様もお子さんと一緒に様々な発見を楽しんでいただけたらと思います。

